

# 新聞 及善蒲鉾店

9月15日(火)

[発行]  
株式会社  
及善商店

[編集]  
及川善弥・沼倉忠彦

# 仙台駅で1カ月出店中!



専務はじめ、弊社の従業員が販売しております!



11番・12番線階段の横です

9月1日から30日までの一か月間、JR仙台駅新幹線中央改札内にて期間限定で出店しております。2月、5月に続き今年3度目の開催です。ここでも人気の厚焼き椎かまぼこ『リアスの秘伝』。ミニ椎かまぼこ6枚入はお土産品としてもおススメです。また長時間移動のお客様のために、保冷剤と保冷バッグもご準備しておりますので、お気軽にお声掛けください。



インターンシップの学生と工場集合写真

## 大阪の大学生がインターンシップに

復興庁の企画する大学生インターンシップで、大阪学院大学の学生さん3名の方々が、当社に研修に来られました。8月25日〜28日の4日間です。初日は志津川工場、二日目は工場が休みのため、神割崎経由で、大川小学校、雄勝を通り女川から石巻の日和山を案内致しました。三日目、四日目は登米市の佐沼工場にて製造体験研修。見事に細工蒲鉾のタイを作り上げました。

## 催事予定

- 9月22日〜23日  
町イチ村イチ! 2015  
東京国際フォーラム
- 22日 12時〜19時
- 23日 10時〜17時



●10月17日〜18日  
みやぎまるごとフェスティバル2015 宮城県庁前駐車場 10時〜16時

●10月17日〜18日  
グランテニ21周年祭 利府町積水ハウススーパーアリーナ 10時〜15時

●10月25日  
秋の味覚・宮城の地産品大集合 in やくらいやくらい薬師の湯前 10時〜15時



やくらい薬師の湯

## 催事報告

●JR仙台駅2階ステンドグラス前特設催事場  
お盆期間中ということも多くのおお客様にご来店いただきました。地元南三陸のお客様も多くご来店いただきました。



仙台駅2階ステンドグラス前

## 開催中催事

●9月1日〜9月30日  
JR仙台駅3階新幹線改札内 8時〜20時



## 今月の福興市

志津川湾タコ祭り  
◎志津川湾タコまつり福興市 9月27日(日)  
南三陸ポータルセンター



## 蒲鉾の原料 ホタルジャコ



南日本のやや深海に生息し、10〜20cmほどの小魚。ホタルのようには発光するためホタルジャコとよばれる珍しい魚である。発光バクテリアを共生させており、腹から尾にかけてのびる透明な部分が発光する。食用としては唐揚げや干物などが中心。そして有名なのがホタルジャコを使用した愛媛のじゃこ天。

## 愛媛のじゃこ天

愛媛県の南伊予地方沿岸部の特産品であるじゃこ天。藩史によると初代宇和島藩主伊達正宗の長男の秀宗が、故郷仙台をしのいで職人を連れてきて生産させたのが、じゃこ天の始まりとされている。この地方では揚げかまぼこを天ふらと呼び、食べ方はそのまま食べるほか、大根おろしを添えた炙り焼きなど。雑魚(じゃこ)の天ぷらで、『じゃこ天』と呼ばれる。原料は、肉替わりにじゃこ天を使った天ぷらカレーは郷土料理の一つ。



宇和島のじゃこ天



松山駅の駅売店に並ぶじゃこ天

## キラキラ秋旨丼スタイル

9月より南三陸町のA級グルメ、キラキラ秋旨丼の提供がスタートしました。食欲にも海産物にも脂の乗る秋。この秋は旬の鮭。なんとこちらも海の宝石といくらは食べた人を笑顔にしてくれます。そのほか、お店によっては数量限定での提供もありますのでご了承ください。



## ひとこと

今月8・9・10日と四国の松山市に全国蒲鉾青年会の全国大会に参加してきた▼松山の人口は約52万人、高松城や道後温泉で知られ、町中を路面電車が行き交い、瀬戸内海にも恵まれた瀬戸内海に面したまちである。今回の目的は蒲鉾屋が全国から集まり交流を深めること。その大会の準備は主に愛媛県の蒲鉾屋のみなさんが行い。盛大におもてなしをしてくださいました。この場をお借りして感謝の意を表したい▼大会が無事盛況に終わり、その深夜、小腹が空き、私は遅くまでやっている小さなラーメン屋さんに一人でいった。そこで大会を運営してくれたじゃこ天屋さんが一人で座っていた。そこで話が今一番の勉強になった。私は宇和島のじゃこ天について聞いた。宇和島には魚市場の他に蒲鉾屋専門の魚市場があるという。そこに水揚げされる魚は、通常の市場より10%高く売られる。そしてその魚達は確実にじゃこ天の原料として日々大事に使われる。これが漁師と買受人との信頼関係を厚くしている。また地域の人は、時期や海の状態で値段が上がったり味が変わったりすることもある。私はそれを聞いて感動した▼この大量生産大量消費の日本で、私達零細企業ものづくりの作りやすさを求めてしまいがちである。私は、端から端まで気持ちが行き渡るものづくりの本質を痛感した▼その宇和島のじゃこ天は、今年で四〇〇年の歴史を迎えるとい

及川 善弥